

今日の説教のポイント<マタイによる福音書 26 章 1～16 節>

イエス様と祭司長たち。香油の女とユダ。その違いを追います。

① 1～5 節：十字架の出来事へ — イエス様と祭司長たちの違い

「二日後は過越祭である。人の子は、十字架につけられるために引き渡される」(2)というイエス様の言葉を聞くと、十字架の出来事がもうすぐ起こることを見通して覚悟されていたことが分かります。一方、祭司長たちもイエス様を捕えて殺そうと悪巧みを謀り、「祭りの間はやめておこう」(5)と書いていましたが、イエス様の言われた通りになりました。イエス様と祭司長たちの違いを思うと共に、その中で神様の御旨が人間の計画を超えて着実に進められていることに気づかされます。

② 6～13 節：大事なものを見逃さない — 弟子たちは私たちの代表！

女がイエス様に注いだ香油の値段は3百デナリオン以上で、それは労働者のほぼ一年分の値でした(マルコ 14:5)。弟子たちは憤慨して「無駄使いだ、貧しい人々に施せたのに」と怒りました。弟子たちの考え方は間違っていない。イエス様の教えられた方向に沿うものでした。しかし、それだけにイエス様が、「なぜ、この人を困らせるのか。わたしに良いことをしてくれたのだ」(10)と言われたのはなぜか、と思わされます。果たして、弟子たちもそして私たちも、イエス様のことをどれだけ理解できているのかと思わされます。弟子たちは私たちの代表です。何か分かったように思っているけれど、何も分かっていない。私たちはこの時の弟子たちと同じなのです！ ですから、分かるように導かれないことはイエス様の十字架の死の意味なのです。神様がこのことに込めて下さった意味を聖書から聞き取らなければならないのです。

③ ユダの姿も私たちのもの — その愚かさから救い出すものこそ！

ユダは銀 30 枚(120 デナリオン相当)でイエス様を引き渡しました。女がイエス様に注いだ香油の値段との違いを思います。このイエス様の死が私たちの罪を赦し、命の道を開いてくれるものであったのです。このことを理解するためにイザヤ書 53 章が与えられた幸いを思います。